

大井川扇状地ディスタンスハウス

家族の程よい距離感と多目的に用途変更できる散居村の中の分散型の家

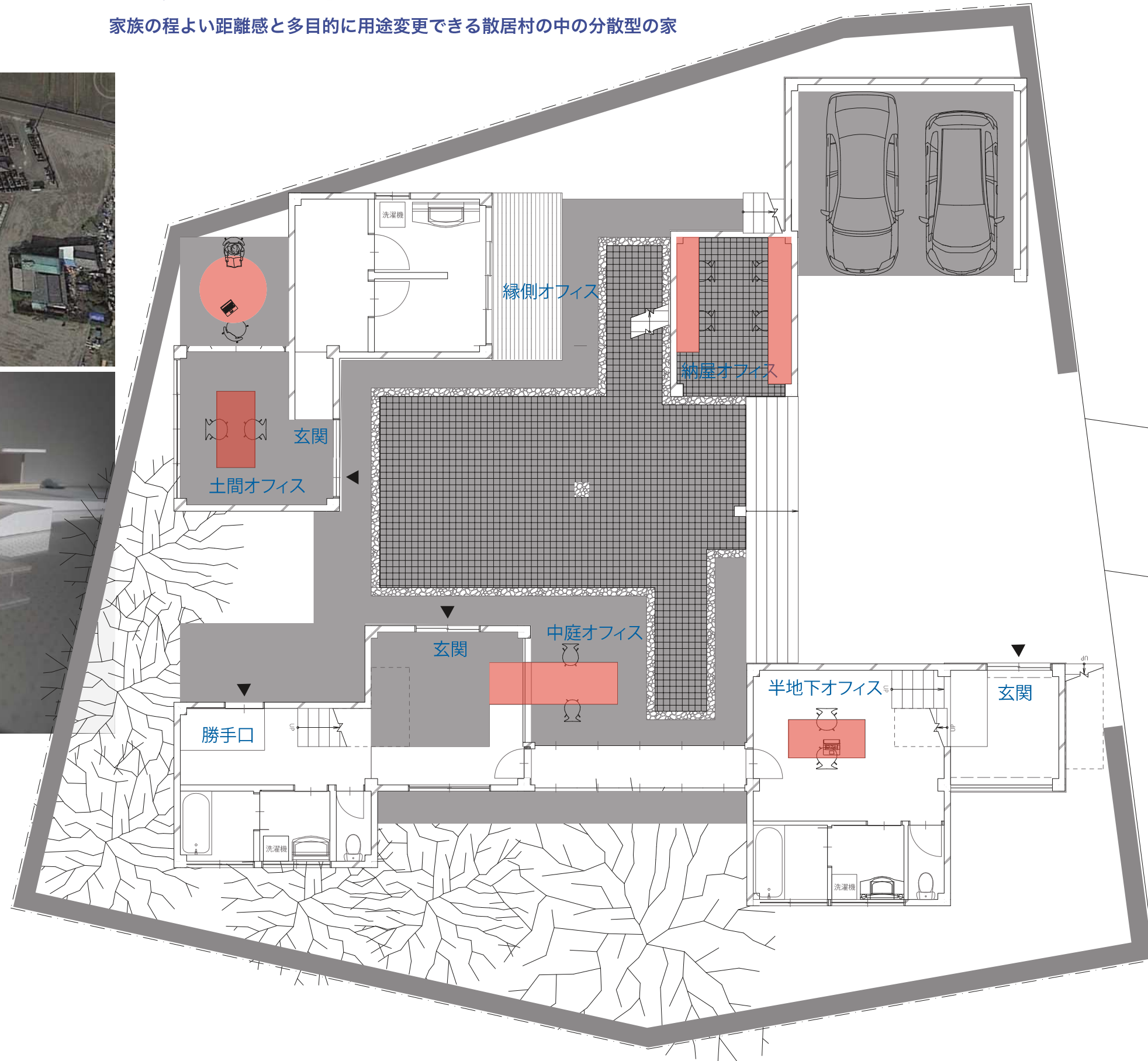


空き地となった散居村住宅の敷地に世代交代や屋敷林維持管理の持続性を高めて、地域の貴重な景観の保全を図る。

伝統的なボタ（地盤嵩上げ）や1階を半屋外のオフィスとすることで、大井川の浸水リスクを低減させる。

分散した4棟は、家族のほどよい距離感を設定し、一部を分離して賃貸することもできる。

2階の回遊デッキは、外気と触れ合いながら移動し、屋敷林の手入れの際には足場として活用する。



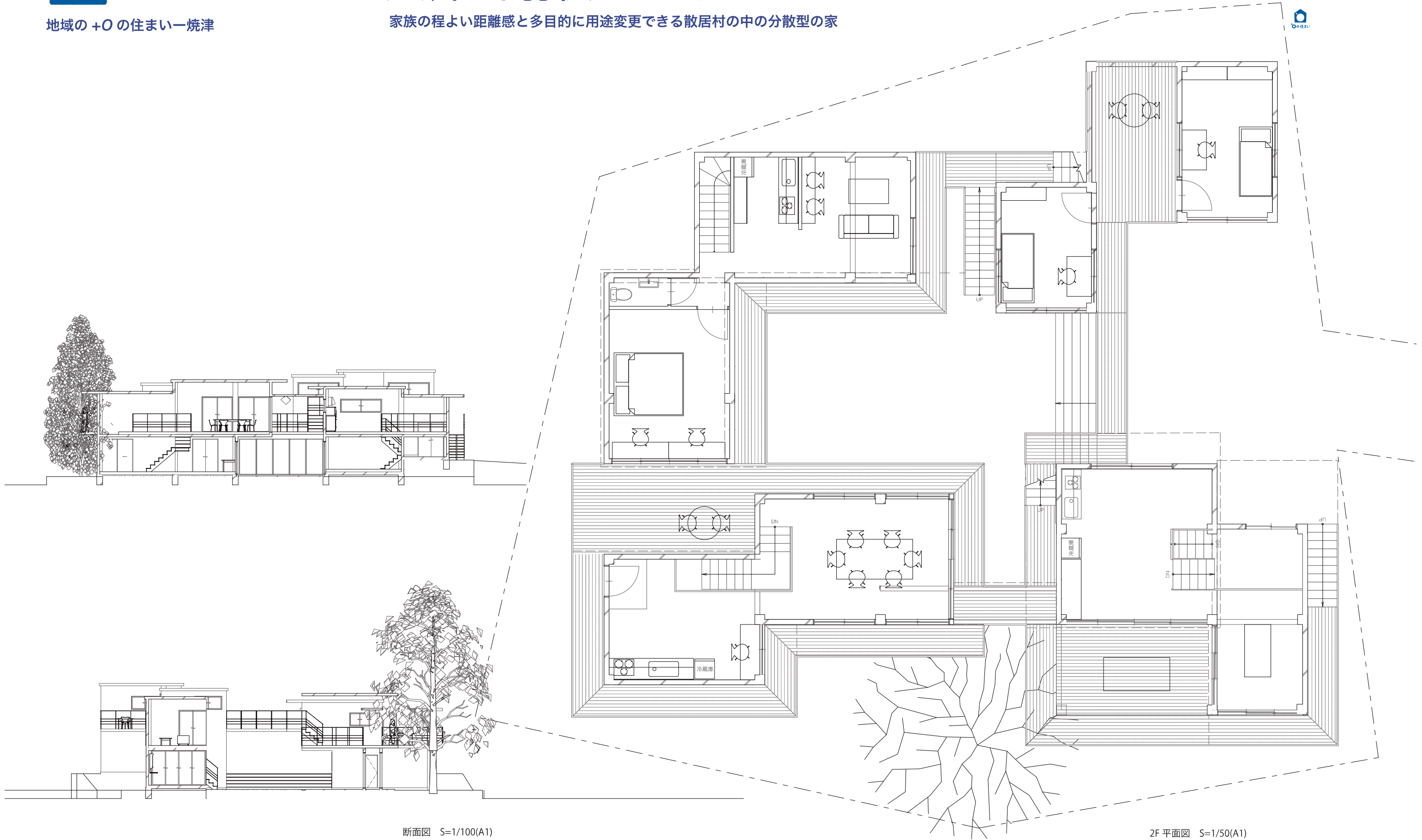
オフィス・オフィス家具

1F 平面図 S=1/50(A1)

断面図 S=1/100(A1)

大井川扇状地ディスタンスハウス

家族の程よい距離感と多目的に用途変更できる散居村の中の分散型の家



断面図 S=1/100(A1)

2F 平面図 S=1/50(A1)